小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　令和 7 年 5 月 27 日開催

法人名	NPO 法人　お互いさまネットワーク	代表者	恩田　初男
事業所名	多機能ケアの喜楽	管理者	亘　智絵

法人・事業所の特徴	法人として介護保険事業と市民活動を組み合わせ「誰もが安心して生活できる地域」を目指している。 事業所としては認知症の人への支援を特徴としており、日常生活訓練（生活リハビリ）を取り入れ、利用者の精神的な安定を試みている。

	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
出席者	大塚さん		小島さん 山本さん	田辺さん　島田さん　山本さん 武井さん		原島さん		恩田・佐山・小川・亘・坂原		13

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み･結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	法定研修を全員が受けられるように環境を整える。	職員会議の時に学習を行い、当日やむを得ず欠席の場合、自宅でも動画を見られるように調整し、全員に学習の機会が与えられるようにした。	「前回と同じ」ではなく具体的に書いた方が伝わりやすい。	法定研修（接遇・プライバシー・身体拘束・感染症・緊急時の対応・事故・災害・認知症等）を繰り返し行い、各職員が、知識やあるべき姿勢を身につけられるようにする。
B．事業所のしつらえ・環境	花や植物、作品を飾り、親しみやすい環境作り、居心地の良い空間作りのために、取り組みを継続していく。	花や植物の他利用者の作品や絵などを玄関に飾り、より家族や地域の人が親しみやすい環境つくりに努めた。		居心地の良い空間作り。外見、音、臭い等の他にも人的環境にも配慮し、気持ちの良い挨拶や笑顔での対応を心がけていく。
C．事業所と地域のかかわり	会報の記事をわかりやすく親しみやすい言葉で作成し、伝わるように努める。	推敲を重ね、分かりやすい言葉で原稿を書いている。		地域との良好な関係を継続していく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の協力者と顔の見える関係を作り、連携していく。	個別ケア会議を開催したことで、顔の見える関係による連携が、大きく前進した。	事業所名を聞いただけでわかる強みを生かした関わりをして下さい。	顔の見える関係から、地域で信頼される存在になれるよう努める。
E．運営推進会議を活かした取組み	事業所の取り組みを運営推進会議でわかりやすく説明することを継続し、意見を改善につなげていく。事業所内を実際見ていただく機会を作る。	事業所の取り組みを運営推進会議でわかりやすく説明した。 地域の民生委員さんに事業所見学をしていただいた。	生で見ると伝わるものがある。見ていないからわからないので、見学はぜひ行ってほしい。	事業所の取り組みを運営推進会議でわかりやすく説明することを継続し、意見を改善につなげていく。年１回は事業所内を見学していただく。
F．事業所の防災・災害対策	災害時の業務継続計画を、BCP 訓練を通して理解を深める。	職員会議時に業務継続計画に基づいて、シミュレーションを行った。	家庭での避難訓練の意識が甘いかもしれない。教えてもらえる部分があるとありがたい。有事の時に駆け付けてくれる近隣との関係性は？	BCP についての理解が不十分なため、職員が共有できるようにする。